

水源の森再生PJ

【竹林整備編】～荒れた竹林の環境改善～

2021年8月1日(日) 参加者24名

◆講座の目的と概要◆

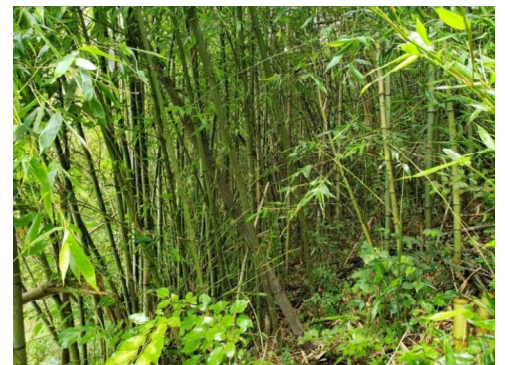
「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけではなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたいと思っております。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育てる作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆竹林整備編「荒れた竹林の環境」◆

小菅村にも、民家の近くに小規模ですが竹林があります。それは、タケノコを採ったり、竹カゴを編むための材料だったり、野菜の支柱(そだ)にするためだったり、まさに『モノは買わずに、身の回りで調達する』暮らしの一部でした。

今回の会場は、小菅村橋立地区の急斜面に広がる竹林。何十年か前までは、この斜面一帯にはコンニャク畑が広がっていました。しかし、現在では畑は民家に近い斜面下側のみとなり、使われなくなった上のほうは荒地となり、竹ヤブになってしまったようです。



◆水が浸透する道づくり

急斜面のため、水が浸透せずにそのまま土とともに下の畑に流れ出していました。ちょうど斜面下の畑で作業していた方も、雨で土が流れ込んでくるのが気になっていたようです。

斜面に段を切って、周りに水が浸透する穴をつくり、降った雨が斜面を流れていかに地中にしみこぶようにします。もみ殻くん炭を撒いて上から落ち葉のマルチを作って、地面を安定させます。



◆風通しの良い竹林に

手入れが行き届いていない竹ヤブの中は、枯れ枝などにより薄暗く、風通しも悪くなっています。

まずは、枯れ枝などを切り出して整理していきます。ここで切った枝や竹は、斜面の等高線に沿って、枝や落ち葉を絡ませて組んでいきます。この様にすると、枝や竹が朽ちて土に戻っていきます。



講師・高田造園スタッフ
山崎 尊史氏



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田宏臣氏著『土中環境』や、NPO法人地球守発行の「地球守の自然読本」に紹介されています。

☆お問合せ 源流大学 ☎ 0428-87-7055

✉ info@npokosuge.jp